

平成27年度豊橋市病院事業決算の概況

本年度の経営状況としては、入院患者数は延258,733人（1日平均707人）、外来患者数は延484,692人（1日平均1,995人）で、前年度と比較して入院患者数は延241人（1日平均1人減）、外来患者数は延343人（1日平均10人増）増加しました。

収支状況については、看護師をはじめとする医療スタッフの確保や専門性の高いがん治療、C型肝炎治療薬「ハーボニー」の治療開始など急性期病院としての高度専門医療の取り組みにより、入院収益は2.4%、外来収益も10.3%の増となり、医業収支は、548,099,105円の黒字となりました。また、前年度に計上した地方公営企業会計制度の見直しによる退職給付引当金など特別損失が皆減となったことにより事業費用は14.3%減少し、医業収支を含む収益的収支は1,543,284,513円の黒字、経常収支についても6年連続となる黒字となりました。当年度未処分利益剰余金のうち、減債積立金に1,543,000,000円を積み立てた後の繰越利益剰余金は1,022,637,038円となりました。

主な事業としては、がん診療連携拠点病院として、放射線治療体制の充実・強化を図るため、平成28年度の開設に向けた放射線治療施設等の整備を進めるとともに、地域医療支援病院として、地域の医療機関と診療情報の連携機能を強化するため、平成29年度の稼働を目指し、次期病院総合情報システムの構築に着手するなど、東三河の地域医療を支える中核病院として、より一層の診療機能と診療体制の充実に努めました。

さらに、これまでの取組みが評価され、平成28年度診療報酬改定において、厚生労働省より、大学病院本院に準じた診療機能を有する病院として、DPC医療機関群Ⅱ群病院（全国で140病院）の指定を受けました。

